

Ⅲ 主要事業の紹介

i) 2つの視点

※予算額は、百万円未満四捨五入です。
()は令和6年度当初予算額、
[2月補正]は令和5年度2月補正予算額、
<12月補正>は令和5年度12月補正予算額です。

将来を守る サステナブル社会への改新

少子化の進行、これに起因した人口減少を背景とする人手不足への対応、物価と賃金の好循環の実現など先送りできない社会課題に立ち向かいます。

また、度重なる災害、新興感染症、地球温暖化など、県民の皆様の暮らしを脅かすリスクから将来を守ります。

未来を拓く イノベーションの創発

デジタルや先端技術、そして何より「人」が生み出すイノベーションの力で、労働生産性の向上や新たな価値の創出を図り、福岡県を成長・発展させます。

将来を守るサステナブル社会への改新

少子化に歯止めをかける、出産・子育て安心社会づくり

◆産後ケア利用者負担を軽減する県独自の補助制度を創設 (1億2,100万円)

- 産後の母子が心身ケアや育児サポートを受けられる産後ケア事業の利用促進を図り、母子の健やかな生活を支援



<産後育児サポート>

こどもたちに多様な学びの場を提供

◆全国初、「学びの多様化学校」を県立高校に設置 (1,200万円)

- 少人数指導や学び直し等の教育課程を編成できる「学びの多様化学校(不登校特例校)」を全国で初めて県立高校に設置(令和7年度)

◆県内全域で博多青松高校の通信制課程を履修できる環境を整備 (5,400万円)

- 博多青松高校の通信制課程において、対面授業を協力校3校(ひびき高校、大牟田北高校、西田川高校)で実施

人手不足に打ち克つ、不断の働き方改革の推進

◆安定的な物流サービスを確保 [2月補正 6億200万円]

- 労働負担の軽減や拘束時間削減に向けた取組を行うトラック運送事業者を緊急支援



<地域経済を支えるトラック運送>

◆地域公共交通の人材を確保 (1,700万円) [2月補正 1億3,200万円]

- 女性・若者・外国人などの多様な人材が、バス・タクシー運転手として活躍できる職場環境整備を緊急支援

◆外科医確保のための遠隔手術指導を支援 (2,300万円)

- 手術ができる現役世代の外科医不足や地域偏在の是正に向け、リモートでの手術指導に必要な機器を整備する病院を支援



<遠隔手術指導のイメージ>



中小企業の持続的賃上げによる賃金と物価の好循環の実現

◆中小企業の持続的な賃上げを推進

(400万円) [2月補正 3, 300万円]

- ・「価格転嫁の円滑化に関する協定」締結13団体が連携し、「中小企業賃上げ応援専門家」による伴走支援、価格交渉スキルアップセミナーを実施



<価格転嫁の円滑化に関する協定>

デジタル技術を活用した防災力の強化

◆福岡西方沖地震から20年、地震対策、災害対応力を強化 (1億1,800万円)

- ・被害想定調査を実施し、「ふくおか防災ナビ・まもるくん」に地震メニューを追加するとともに、災害時におけるAI技術や衛星データ等の活用を促進

◆土木施設の点検・管理におけるDX推進により、災害対応力を強化 (1億4,800万円)

- ・ドローンとAIの活用により、災害時等の土木施設点検を迅速化・効率化するとともに、道路防災情報の一元管理システムの構築により、道路維持管理を効率化

ワンヘルスの推進

◆ワンヘルスセンター研究力の強化 (700万円)

- ・保健環境研究所において、病原体情報やレセプトデータ等を一元化するとともに、データ解析のためのワークステーションを整備



<ワンヘルスセンター(イメージ)>



<ワンヘルス ロゴマーク>

◆太陽光発電設備等の共同購入とJ-クレジット制度を活用し、地球温暖化対策を促進 (1,900万円)

- ・太陽光発電設備等の共同購入を推進するとともに、J-クレジット制度により家庭のCO2排出削減量の取引を実施

◆藻場の再生により、海のCO2固定を推進 (1,500万円)

- ・藻場の保全活動によるブルーカーボン(海藻などに取り込まれた炭素)を創出するため、産学官が連携し、藻場のCO2固定量を算出しクレジット化するための技術開発や、保全活動で除去したウニを、地元産野菜を餌として養殖する取組を支援

Q 「J-クレジット制度」とは何ですか？

A 太陽光発電設備や省エネルギー設備の導入によるCO2の排出削減量等を取引可能な「クレジット」として国が認証する制度です。

未来を拓くイノベーションの創発

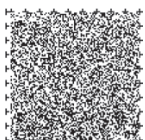
明日の福岡の“産業のコメ”への重点投資

◆半導体「最先端実装」開発拠点化の推進 (2億4,800万円)

- ・企業版ふるさと納税を活用して「三次元半導体研究センター」に最先端機器を導入し、研究開発機能を強化するとともに、県内企業の取引拡大や新規参入、県外からの誘致を促進



<三次元半導体研究センター>



- ◆全国に先駆け、EVバッテリーリユース・リサイクルの福岡モデルを構築（1,500万円）
 - ・全国初のEVバッテリーリユース・リサイクルモデルの構築に向けて、官民挙げた研究会を設置し、ビジネスモデルやロードマップを策定

- ◆福岡バイオエコシステムの形成を推進（4,700万円）[2月補正 2,200万円]
 - ・ボストンへのビジネスミッション団派遣、米国での医薬品承認支援や海外展示会への出展支援など、県内バイオベンチャーの海外展開支援を通じ、福岡バイオエコシステムの形成を推進

イノベーションを創出する「拠点」、「人」づくり

- ◆スタートアップ・ベンチャー支援拠点を形成（2,800万円）

- ・令和7年春の「CIC Fukuoka（仮称）」開設に合わせ、県の新たなスタートアップ・ベンチャー支援拠点「グローバル・コネクト・福岡（仮称）」開設を準備

- ◆「金融・資産運用特区」認定を目指し、国際金融機能形成を促進（1億600万円）

- ・資産運用業者やFinTech企業等へのプロモーションのため、北米での金融関連展示商談会へ出展

- ◆園芸農業の先端技術研究開発拠点を整備（4億100万円）

- ・農林業総合試験場の先端技術研究開発機能の強化に向け、新たな拠点施設の用地取得や基本設計等を実施

- ◆バンコク都と連携し、起業家精神を持つ「アントレプレナーシップ人材」を育成（700万円）

- ・本県と友好提携を結んでいるタイ・バンコク都のスタートアップに関心のある大学生や社会人を相互に派遣し、経済発展や社会変革に貢献する起業家精神を持つ人材育成プログラムを実施



<CIC Tokyo>

- ◆「ふくよかまる」の高品質種子をAIにより迅速に見分ける高性能選別機導入を支援（3,600万円）

- ・高性能選別機の導入支援により、大豆新品種「ふくよかまる」の全面転換を加速化



<大豆新品種「ふくよかまる」>

新たな可能性を広げる女性・障がい者・海外人材の活躍

- ◆女性の創業支援を強化【融資枠】16億円

- ・県制度融資「新規創業資金」に女性向けメニューを新設し、創業支援を強化
- ・保証料を県と信用保証協会で全額補てん(0.95%→ゼロ)

- ◆ARグラスを活用し、障がいのある人の就労分野拡大を支援（200万円）

- ・障がい者雇用が可能な運輸事業者等の業務を切り出し、就職前にARグラスを活用した訓練を実施



<ARグラスを活用した訓練>

- ◆テクノロジー分野における女性の活躍を推進（2,200万円）

- ・女性エンジニアにフォーカスを当てたPR動画を制作し、キャリア教育で活用するほか、女子中高生等を対象にした職場見学会を実施する「ガールズテックプログラム」を開催

- ◆海外人材の相談体制を強化し、多彩なステージでの活躍を支援（7,400万円）

- ・海外人材の生活や就労等に係る相談体制を強化するため、県と国等の海外人材専門機関が一体となり、ワンストップで対応する「FUKUOKA IS OPENセンター」を開設



<FUKUOKA IS OPEN ロゴマーク>

